

令和1年度

洛和会音羽病院
歯科単独型臨床研修プログラム
(050172003)

医療法人社団 洛和会
洛和会音羽病院 (050172)

I. 臨床研修プログラムの名称 洛和会音羽病院歯科単独型臨床研修プログラム

II. 研修管理委員会の名称 洛和会音羽病院歯科臨床研修管理委員会

III. 研修歯科医定員 2名

IV. 参加施設の概要

単独型臨床研修施設（別紙1. 参照）	
施設名	洛和会音羽病院
所在地	京都市山科区音羽珍事町2
臨床研修施設長	二宮 清
研修管理委員会委員長	今井裕一郎
研修プログラム責任者	今井裕一郎

V. プログラムの目的と特徴

本臨床研修プログラムでは、厚生労働省が定める初期臨床研修到達目標（以下「初期臨床研修到達目標」という）を達成するため、京都市山科地区二次医療圏の中核病院である洛和会音羽病院を単独型臨床研修病院とした初期臨床研修を実施する。

歯科医師として必要な診療に関する基本的知識、技術をもとに、全人的医療が実施できるよう診察法、検査、治療法を学び、より良い、より高い質の歯科医療をめざした研修を行う。同時に患者様へのインフォームドコンセントを尊重し、計画的に診療を行うとともに、行った処置についても予後予測が出来るようにする。当院は歯科麻酔科医が麻酔管理し口腔外科医によって年間250件以上の全身麻酔下手術（うち約半数が顎矯正手術）を行っており、外来患者数は月間のべ3,000名以上と豊富な症例数がある。当院のように地域に密着した病院の特徴を生かし、総合的な臨床能力を有しつつ、有病者の全身管理や口腔疾患の治療を通じた医の倫理・生命の倫理が尊重できる歯科医師の育成を目指す。

VI. 研修目標

プライマリ・ケアに相当する歯科外来の知識と技術の習得を行い、一般歯科にて基本的な歯科研修項目、歯科麻酔科にて全身管理と口腔ケア、口腔外科にて基本的な口腔外科手技と口腔外科入院患者の病棟管理を研修する。

- ・基本研修項目では、初期臨床研修到達目標の達成を目的とし、各事項の臨床研修プログラムに従い研修を行う。
- ・各研修は高度医療機器を用いた検査、診断および専門医療についても、研修歯科医が積極的に参加できるプログラムとする。
- ・チーム医療の重要性を理解し、研修歯科医は合同カンファレンスに参加するなど、他科の医師とのコミュニケーションを図り、それら医師の指導・協力のもとに、他の医療従事者と協調しながら広い視野をもって研修を行う。
- ・患者の紹介・逆紹介、開放型病床での共同指導、地域の歯科医師との連携ならびに高度先進医療を担う大学病院等との連携の重要性を理解し実践する。
- ・救急研修は当院の医師オンコール制度実践という特徴を生かし、口腔外科研修中は1次および2次歯科救急医療に対応するため、担当指導医の監督のもとに行う。

VII. カリキュラム

① 研修方式、期間割

単独型研修方式による歯科臨床研修

まず本研修プログラムの説明を含めたオリエンテーションを行う。次いで、歯科診療において総合的かつ基礎的知識と技能を学び、歯科医として必要な臨床的態度を修得する。その後、プログラムは6月より当院の指導歯科医のもとでマン・ツー・マンの外来歯科診療の指導を受け、基礎技術の習得とプライマリ・ケアの実施を学ぶ。プログラムでは10ヶ月の口腔外科研修と2ヶ月の歯科麻酔科研修が行われる。

また、歯科衛生士、歯科技工士などコ・メディカルスタッフとの連携を密にすることでチーム歯科診療を学ぶ。

② 研修内容と到達目標

別紙2．別紙3．参照

③ 研修歯科医の勤務時間

8：30 ～ 17：15

本院就業規則の勤務体制を遵守する。

④ 教育に関する行事

(1) 修練中は、歯科の症例検討会、勉強会、抄読会、カンファレンスに参加する。

また関連医科のカンファレンスにも進んで参加する。

(2) 学術講演会や保険講習会、歯科医師会に参加し学習する。

⑤ 指導体制

プログラム責任者が全般的に研修の進行をみるが、指導歯科医等がマン・ツー・マンで研修歯科医の実施指導に当たる。研修歯科医は日々の研修内容を記載する研修ノートを携帯し、その課題を理解し、到達目標にむかって研鑽する。中でも厚生労働省の指示する一般目標の修得は歯科医師として身につけなければならない基本的態度でもあるので共通目標とし、指導の重点課題となる。

(1) 本プログラムの研修内容と達成目標 (別紙2.)

(2) 基本習熟コースと基本習得コース (別紙3.)

VIII. 研修歯科医評価

(1) 研修歯科医は各ローテイト終了後、DEBUT（オンライン歯科臨床研修評価システム）達成目標に対して達成度合の自己評価を行う。合わせて、指導歯科医の評価を加え、総合判断に基づき次の研修活動の参考にする。研修ブロックごとならびに1年間の終了時にチェックリストの結果を研修管理委員会に提出し点検を受ける。研修期間終了時にはその期間の研修の成果、問題点、研修内容への希望など、研修の総括を行う。

(2) 指導歯科医の評価

研修歯科医の行った自己評価の各項目に対して、指導歯科医としての評価を行う。評価の段階は研修歯科医の自己評価と同様に、各項目の最終獲得目標を評価する。研修期間終了時にはその期間に研修歯科医が得たと思われる研修の成果、問題点、その後の研修を受けるときの注意などを

指導歯科医に対して意見を与える。研修プログラムの到達目標の達成に必要な症例数は別紙2に示す。研修項目の指導歯科医による評価が「体験」70%以上、もしくは「体験」および「修得」50%以上をもって修了と判定する。

(3) 指導体制の評価

洛和会音羽病院の研修実施責任者は、年に2回以上卒後臨床研修連絡会議を開き、各研修歯科医の研修状況を把握するとともに、研修における問題点について協議し、プログラムの改善を図る。

IX. プログラム修了認定

1年間の必修研修プログラムの修了を研修管理委員会が審査し、研修管理委員長が臨床研修修了証を交付する。

X. プログラム修了後のコース

研修歯科医師の希望により他病院に就職する。

XI. 研修歯科医の募集・採用・処遇等

- | | | |
|------------------|---|--------------|
| 1.プログラム名 | 洛和会音羽病院歯科単独型臨床研修プログラム | |
| 2.プログラム募集人員 | 2名 | |
| ○ 公募 | (マッチングに参加) | |
| ○ 公募方法 | 各大学あてに募集事項を送付する。(ホームページにて公開) | |
| ○ 応募時期 | 令和1年 6月1日～8月末 | |
| ○ 採用方法 | 筆記試験 (口腔外科、歯科麻酔) および面接 | |
| 3.研修開始日と期間 | 令和1年 4月1日から1年間 | |
| 4.研修スケジュール | 1年間を通して洛和会音羽病院にて研修 | |
| 5.洛和会音羽病院の処遇について | | |
| ・ 常勤 | 常勤 (契約職員) | [雇用契約を締結します] |
| ・ 給与額 | ¥ 250,000/月 | [平成28年度実績] |
| ・ 賞与 | なし | |
| ・ 時間外勤務・手当 | あり | |
| ・ 休日 | 日曜日、祝日を含めた4週8休制 | |
| ・ 勤務時間 | 8:30～17:15 (休憩60分) | |
| ・ 有給休暇 | 入社3ヶ月より発生 (合計:11日) | |
| ・ 日直当直勤務・手当 | なし | |
| ・ 年末年始休暇 | 12月30日～1月3日 | |
| ・ その他特別休暇 | リフレッシュ休暇 ※5月～翌2月連続10日間
忌引、結婚、産前・産後休暇など | |
| ・ 交通費支給 | なし | |
| ・ 研修歯科医の宿舎 | あり (病院負担あり) | |
| ・ 研修歯科医の為の研修室 | 医局内に個人用机と書庫あり | |
| ・ 各種保険 | 健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労務災害補償保険 | |
| ・ 研修歯科医の健康診断 | 2回/年の健康診断を実施 | |
| ・ 歯科医師賠償責任保険 | 個人において加入 (任意ではありますが、加入を強く望みます。) | |
| ・ 学会 | 学会出張あり
※学会発表 (第一演者) である場合、公費負担あり | |

XII. 資料請求先（応募方法詳細については当方に問い合わせること。）

〒607-8062

京都市山科区音羽珍事町2番地

洛和会音羽病院 医局秘書課 サンドウ・ヨノツ宛（日本語可）

TEL 075-593-4111（内線4141）

E mail hisyo04_o@rakuwadr.com

別紙1. 歯科臨床研修管理委員会

委員長	今井 裕一郎*	洛和会音羽病院	口腔外科部長
プログラム責任者	今井 裕一郎*	洛和会音羽病院	口腔外科部長
委員	横江 義彦*	洛和会音羽病院	京都顎変形症センター所長
委員	中尾 晶子*	洛和会音羽病院	歯科麻酔科副部長
委員	森 宏樹*	洛和会音羽病院	口腔外科医長 (京都顎変形症センター 兼務)
委員	高畠 森彦*	洛和会音羽病院	口腔外科医員
委員	藤本 真智子*	洛和会音羽病院	歯科麻酔科医員
委員	酒見 英太	洛和会音羽病院	副院長 (洛和会京都医学教育センター所長)
委員	仙波 拓朗	洛和会音羽病院	経営管理部主席課長
委員	佐々木 孝尚	洛和会音羽病院	秘書課主席課長
委員	SANDU IONUT	洛和会音羽病院	秘書課係長
外部委員	杉江 良啓	山科歯科医師会	会長

* : 厚生労働省歯科臨床研修指導医

別紙2. 研修内容と到達目標

I. 一般到達目標

当院では、歯科処置（技術）を習得するだけでなく、処置前の患者様へのインフォームドコンセントの尊重、処置後の予後予測など①～⑦が習得できるよう、広い視点を持った総合的な歯科医療を研修する。また、医科診療との連携がとれるよう、チーム医療としての歯科研修を行う。

- ① 歯科の健康上の不安や障害を的確に排除あるいは緩和できること
- ② 自らの行った処置の予後について予測ができること
- ③ 歯科保健の保持・増進に適切な助言、援助ができること
- ④ 自己の能力の限界を知り、常に研修意欲を持つこと
- ⑤ 患者に対して、十分な説明を行い、同意を得られること
- ⑥ 歯科診療上の偶発的な事態に適切に対処できること
- ⑦ 救急歯科診療に的確に対処できること

II. 具体的目標

① 基本的習熟事項（卒前で修得した事項を基本にして十分習熟すべき事項）

a) 診査項目（**必要症例 10 症例**）

1. 全身、特に顎顔面領域の視診、触診、聴診、打診
2. 簡単な器具を用いる一般診査（血圧の測定、顎関節の診査、咀嚼筋等の診査）
3. 診療用顎模型による診査（概形印象採得）
4. 顎、顔面、口腔の写真検査
5. 歯科用エックス線検査（口内法）
6. 器具を用いる齶触、歯内疾患の診査（歯髄診断、根管長測定）
7. 器具を用いる歯周疾患の診査（歯周ポケット測定）
8. 器具を用いる歯列及び咬合関係の診査（平均値咬合器、サベイングとアンダーカットの測定、平行測定、咬合平面の診査、ゴシックアーチ描記）

b) 処置項目（**必要症例 10 症例**）

1. フッ素塗布
2. 予防填塞
3. 除痛処置（薬物による局所鎮静療法）
4. 局所麻酔法（塗布麻酔、浸潤麻酔）
5. 罹患歯質の切削
6. 単純窩洞の形成と修復操作
7. 歯髄の処置（保存療法、断髄法（乳歯の生切）、抜髄法）
8. 簡単な感染根管の処置
9. 根管充填法
10. 歯周初期治療（歯石除去、根面滑沢化、簡単な暫間固定、歯周ポケット搔爬術）
11. 抜歯（乳歯、永久歯：簡単なもの）
12. 口腔内消炎手術（小膿瘍切開）、術後の処置
13. 歯冠修復処置
 - ・ 簡単な症例に対する支台歯形成と修復操作

14. 固定式欠損補綴処置
 - ・ 平行関係に問題の少ない1歯欠損症例に対する冠橋義歯の支台歯形成と補綴操作
15. 可撤式欠損補綴処置
 - ・ 咬合関係に異常がない簡単な欠損症例に対する部分床義歯による補綴操作
 - ・ 顎堤変化が少ない無歯顎症例による補綴操作
16. 単純な補綴物破損の修理・調整

c) その他 (**必要症例 5 症例**)

1. 診療録等の作成 (カルテの記載、処方箋の交付、歯科技工指示書の発行)
2. インフォームドコンセント患者の社会的全身的背景への配慮
3. 必要な療養の方法、その他保健の向上に必要な事項の指導

② 習熟事項 (①を十分習熟した後、習熟すべき事項)

a) 診査項目 (**必要症例 10 症例**)

1. パノラマエックス線検査
2. 歯科用エックス線検査 (口外法)
3. 歯周ポケット滲出液の検査
4. 採血
5. 穿刺
6. 半調節性咬合器の調節
7. 半調節性咬合器を用いた咬合診査
8. 咬合音診査
9. 下顎運動路描記
10. チェックバイト採得
11. 模型及び顎態分析

1. 処置項目 (**必要症例 10 症例**)

1. 局所麻酔 (伝達麻酔)
2. 複雑窩洞の形成と修復操作
3. 複雑な感染根管の処置
4. 外傷歯、変色歯の処置
5. 歯周初期治療 (複雑な暫間固定)
6. 歯肉切除術、新付着術、フラップ手術
7. 抜歯 (乳臼歯、永久歯)
8. 口腔内消炎手術 (歯肉弁切除)
9. 歯肉息肉除去手術
10. 頬口唇舌小帯整形手術
11. 歯槽骨整形手術
12. 口腔内縫合処置
13. さらに複雑な歯冠補綴処置
 - ・ 転位歯の歯冠修復
14. さらに複雑な欠損補綴処置
 - ・ 2～4歯欠損の冠橋義歯による歯冠補綴

- ・咬合関係に異常がない複雑な部分欠損補綴
- ・顎堤変化がやや進んだ無歯顎補綴

15. ショックの救急処置

2. その他 (必要症例 5 症例)

1. 診療計画、評価 (情報収集 (文献検索を含む)、診療計画の作成、変更)
2. 他科の医師との連携による治療
3. 他の医療従事者との連携
4. 地域医療に参画する
5. 入院患者の管理
6. 患者の継続管理

別紙 3. 基本習熟コースと基本習得コース

(1) 基本習熟コース

一般目標 (GIO)

個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を実践できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。

<各ユニットの一般目標 (GIO) ならびに行動目標 (SB0s) >

1) 医療面接

一般目標

(GIO) 患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度及び技能を身に付け、実践する。

行動目標

(SB0s)

- (1) コミュニケーションスキルを実践する。
- (2) 病歴 (主訴、現病歴、既往歴及び家族歴) 聴取を的確に行う。
- (3) 病歴を正確に記録する。
- (4) 患者の心理・社会的背景に配慮する。
- (5) 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- (6) 患者の自己決定を尊重する (インフォームドコンセントの構築)。
- (7) 患者のプライバシーを守る。
- (8) 患者の心身における QOL (Quality Of Life) に配慮する。
- (9) 患者教育と治療への動機付けを行う。

2) 総合診療計画

一般目標

(GIO) 効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。

行動目標

(SB0s)

- (1) 適切で十分な医療情報を収集する。
- (2) 基本的な診察・検査を実践する。

- (3) 基本的な診察・検査の所見を判断する。
- (4) 得られた情報から診断する。
- (5) 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。
- (6) 十分な説明による患者の自己決定を確認する。
- (7) 一口腔単位の治療計画を作成する。

3) 予防・治療基本技術

一般目標

(GIO) 歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。

行動目標

(SBOs)

- (1) 基本的な予防法の手技を実施する。
- (2) 基本的な治療法の手技を実施する。
- (3) 医療記録を適切に作成する。
- (4) 医療記録を適切に管理する。

4) 応急処置

一般目標

(GIO) 一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

行動目標

(SBOs)

- (1) 疼痛に対する基本的な治療を実践する。
- (2) 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。
- (3) 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。

5) 高頻度治療

一般目標

(GIO) 一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

行動目標

(SBOs)

- (1) 齶蝕の基本的な治療を実践する。
- (2) 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。
- (3) 歯周疾患の基本的な治療を実践する。
- (4) 抜歯の基本的な治療を実践する。
- (5) 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。

6) 医療管理・地域医療

一般目標

(GIO) 歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。

行動目標

(SBOs)

- (1) 保険診療を实践する。
- (2) チーム医療を实践する。
- (3) 地域医療に参画する。

(2) 基本習得コース

一般目標 (GIO)

生涯にわたる研修を行うために、より広範囲の歯科医療について知識、態度及び技能を習得する態度を養う。

<各ユニットの一般目標 (GIO) ならびに行動目標 (SBOs) >

1) 救急処置

一般目標

(GIO) 歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度及び技能を習得する。

行動目標

(SBOs)

- (1) バイタルサインを観察し、異常を評価する。
- (2) 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。
- (3) 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。
- (4) 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。
- (5) 一次救命処置を实践する。
- (6) 二次救命処置の対処法を説明する。

2) 医療安全・感染予防

一般目標

(GIO) 円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度及び技能を習得する。

行動目標

(SBOs)

- (1) 医療安全対策を説明する。
- (2) アクシデント及びインシデントを説明する。
- (3) 医療過誤について説明する。
- (4) 院内感染対策 (Standard Precautions を含む) を説明する。
- (5) 院内感染対策を实践する。

3) 経過評価管理

一般目標

(GIO) 自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。

行動目標

(SBOs)

- (1) リコールシステムの重要性を説明する。
- (2) 治療の結果を評価する。
- (3) 予後を推測する。

4) 予防・治療技術

一般目標

(GIO)生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。

行動目標

(SBOs)

- (1) 専門的な分野の情報を収集する。
- (2) 専門的な分野を体験する。
- (3) P O S (Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する。
- (4) E B M (Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する。

5) 医療管理

一般目標

(GIO)適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。

行動目標

(SBOs)

- (1) 歯科医療機関の経営管理を説明する。
- (2) 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。
- (3) 適切な放射線管理を実践する。
- (4) 医療廃棄物を適切に処理する。

6) 地域医療

一般目標

(GIO)歯科診療を適切に行うために、地域医療についての知識、態度及び技能を習得する。

行動目標

(SBOs)

- (1) 地域歯科保健活動を説明する。
- (2) 歯科訪問診療を説明する。
- (3) 歯科訪問診療を体験する。
- (4) 医療連携を説明する。